

刊行にあたって

臨床エビデンスの階層を表すエビデンスピラミッドの最上位は、無作為割付臨床試験 (Randomized Controlled Trial) を吟味・統合したシステマティックレビューです。一方、長年の臨床研鑽を重ねたエキスパートオピニオンも、重要なエビデンスとして、このピラミッドに含まれています。

ずいぶん前になります。聖路加国際病院名誉院長であった故 日野原重明先生が執筆された、「医師が長年かけて修得したものを、後進にはそれより短い期間で修得できるようにするのが医学の進歩である」という趣旨の寄稿を拝読し、以来その一節が頭から離れずにいました。

本書は、補綴臨床の研鑽を重ね、一朝一夕では大成しにくいエキスパートのオピニオンを、アカデミアとジェネラリスト総勢112名が分担執筆しています。まさに日野原先生が言わんとする、エキスパートが長年かけて修得した事項が、端的かつ奥深く書かれています。読者におかれましては、ぜひ本書を診療室に備え、事あるごとに紐解いて活用し、患者へと還元していただくことを願うばかりです。そして、その積み重ねが少しでも歯科医療の進歩に貢献できれば、望外の喜びです。

蛇足ながら、本書をとおして補綴臨床の眼目は、時代を通じて変わらない不易な補綴に対する技術や矜持のうえに、変化と新しさを重ねていく「不易流行」が本質であると感じ取っていただければ、これ幸いであります。

最後に、本書刊行にあたって多大なるご協力をいただいた執筆者各位および(株)デンタルダイヤモンド社編集部 木下裕介氏はじめ、関係各位に厚く御礼を申し上げます。

令和元年 盛夏
河相安彦